

# 兵庫県で始めて発見された ハデフラスコモについて

江 越 千 代

1956年7月30日、六甲山上の池で、兵庫県で始めてハデフラスコモが発見された。問題のハデフラスコモは、筆者が、たまたま六甲山に植物採集に出かけた折発見したもの。池に沈んでいた状態は、フラスコモによく似ていたが、もつとせんさいで美しい緑藻であった。ふと、別種かも知れない、何というモであろう？と思ひ、その研究家として知られる東京都立大学助教授加崎英男氏に鑑定を願つたところ「日本特産種ハデフラスコモで、兵庫県で初めての発見、しかも700mもの高地で発見されたことも日本で初めてのこと、ハデフラスコモの研究上貴重な資料になつた」、と非常によろこばれた。

尚、加崎助教授より教示頂いたことを少しまとめて記す。

## ○ 究 研 史

○ **発見と命名** 米人 T. F. Allen 女史が1895年 *Bulletin of the Torrey Botanical Club* 22巻 69頁にはじめて記載、*Nitella pulchella* と命名した。この標本は日本から送られたもので、田中芳男氏採集にかかるもの。この原標の産地 (Type locality) は、Chikubushima pond, Mikawa Tenu pond, Tokyo Shinbashi pond と記されている。

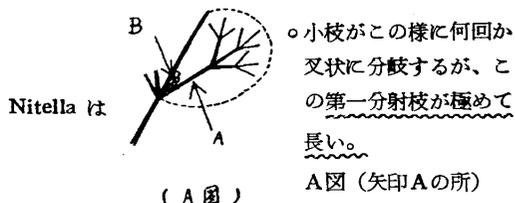
○ その後、牧野富太郎博士が、植物研究雑誌1926年第6巻12号 392頁に Allen の図を附して、日本産の既知、シヤジクモ科植物の紹介を行つている中に、ハデシヤジクモなる和名をつけられた。

○ 1942年、今堀岩三氏が同上植研誌上(22巻3-4号)に自らの観察による今迄の記載の訂正を発表。

○ **分 布** この植物は日本特産種であるが、本州、四国、九州に至り分布していることが、加崎、今堀両氏により確められた。

○ **主な産地** 九州：鬮半田池 (鹿児島県) 四国：香川 愛媛両県 本州：岩手、宮城、千葉、島根、福井、石川、三重、岡山、広島  
兵庫県よりの記録は今迄になく、六甲山は初めての発見。

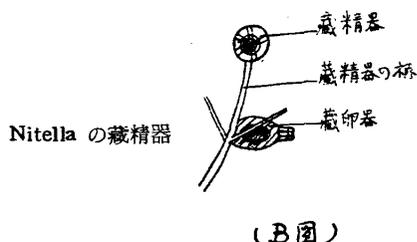
○ 分類上の位置及特徴：車輪藻類のシヤジクモ科 Characeae (広い意味では緑藻類に入る) フラスコモ亜科 *Nitelleae* フラスコモ属 *Nitella*。



○ 雌雄生殖器は短く集り、小頭状に小枝の腋から発するA図 (矢印Bの所の状を呈す)

○ この部分には寒天質が発達し、厚い寒天質で包まれている。

○ この部分をカバーグラスで押しつぶして検すると、軸の先端中に藏精子、側面に藏卵器が見られる。この中藏器は、赤色を呈し美しく、また長い柄をもつている。他の *Nitella* の種類ではこの柄が殆ど見られない程度のもので、この種類の特徴となる。



○ 以上が加崎助教授より頂いた文研のあらましである。六甲山上で発見された原標の一部は、本年一月兵庫県生物学会からの本県特産植物生品の一部、筆者の植物原色図、腊葉などと一語に天皇陛下に献上したが、宮内庁入江侍従より、日を経ずして「陛下も非常によろこばれ、陛下の植物研究室に保管されたとの通知を受け取つた次第である。

1957.11.7